

イチジクヒトリモドキに注意しましょう

(5月27日)

5月下旬の巡回調査で、柏原市円明のいちじくほ場においてイチジクヒトリモドキの卵塊、若齢幼虫を確認しました。
また、羽曳野市誉田の農業者からも幼虫を発見したとの情報がありました。

この害虫は、大阪府内では平成19年10月に初めて発生を確認したもので、去年は羽曳野市、柏原市、高槻市、堺市で発生が確認されています。

いちじくの新梢生育期にあたる5～7月上旬に食害を受けると大きな被害となる恐れがあるので、発生を確認した場合はしっかり防除しましょう。

若齢幼虫は集団で食害するため、葉と一緒に除去するのが効果的です。老齢幼虫になると拡散しているので防除しにくくなります。

本種はいちじく以外にも同じクワ科であるイヌビワ、オオイタビなどを食害しますので、ほ場周辺にそのような植物がある場合は特に注意して下さい。

イチジクヒトリモドキについて

- 1 卵は淡黄色で直径約0.8mmのまんじゅう型をしており、葉裏に30～60個の卵塊として産み付けられる。
- 2 若齢～中齢幼虫は、胴部背面が全体に白っぽく、頭部は黒色、体の側面は橙色である。
- 3 終齢幼虫は、体長約40mmで、頭部はつやのある黒色、胴部背面は灰色がかった黒色で、腹面は橙黄色を呈する。

刺毛基部は橙黄色で、刺毛基部からは白く長い刺毛が1本ずつ生える。

3 成虫は、開張50～70mmで前翅が淡褐色の地色に橙黄色、黒色、白色の斑紋、後翅は黄色の地色に黒色の斑紋を有する

蛾である。

(下写真を参照)

防除薬剤

- ・アディオン乳剤 3,000倍液（収穫前日、2回以内）
- ・モスピラン水溶剤 2,000倍液（収穫前日、3回以内）
- ・デルフィン顆粒水和剤 1,000倍液（収穫全日、4回以内）

なお、薬剤の選定にあたっては、収穫前日数、総使用回数に注意してください。



図1 卵塊写真



図2 若齢幼虫



図3 老齢幼虫



図4 成虫



図5 食害の様子1



図6 食害の様子2